

「柑橘園地の継承と新たな挑戦」

松田 昌稔 (23 歳)
(愛南町)

新規学卒



1 就農の動機・理由

専業農家であった両親の影響もあり、農業は身近な存在だった。物心が付いた頃から、我が家の柑橘が大好きで、自分も父のように美味しい柑橘をつくりたいと考えるようになっていた。

高校を卒業後、愛媛県立農業大学校の果樹コースに進学し、柑橘類に関する知識と技術を習得した後、父親の農地を一部継承し、経営を開始した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和元年)	現在の経営 (令和4年)	将来の経営 (令和7年)
労働力	男1人(本人) パート3人	男1人(本人) パート3人	男1人(本人) パート3人
経営耕地	樹園地 190a	樹園地 195a	樹園地 195a
経営内容	甘夏 170a 河内晩柑 20a	甘夏 170a 河内晩柑 20a ブドウ 5a	甘夏 170a 河内晩柑 20a ブドウ 5a

○農業用施設

農業用倉庫 1棟
雨よけハウス 1棟

○主要農業機械

トラック(2t) 1台
運搬車 1台
動力噴霧器 1台
耕運機 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県愛南町

職歴 なし

就農研修歴

愛媛県立農業大学校

(H29. 4. 1~H31. 3. 31)

就農年月 令和元年8月

(2) 就農時の思い

家業手伝いをしてきたこともあって、甘夏、河内晩柑の栽培には自信があった。しかし、ブドウは両親を含めて誰も栽培したことが無かったため、うまくできるかどうか不安があった。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

父親のアドバイスや直接指導を受け技術力を高めている。また、日々参考書やインターネット検索を用いて知識のアップデートを図っている。

(2) 資金の準備

自己資金の他、農業次世代人材投資事業(経営開始型)を活用している。

(3) 農地・住宅の確保

農地は父親の農地を一部継承した他、第三者から農地の借り入れを行っている。住宅は実家で両親と同居している。

(4) その他苦労したこと

ブドウ栽培の準備に苦労した。農地の借り入れや苗の確保に時間を費やした。また、栽培に適したハウスを探すため、宇和島市、西予市、今治市等の優良園地を視察した。

5 農業経営の特徴

父親から一部継承した甘夏、河内晩柑の園地は成木樹のため収量・収益面で安定している。また、新たに導入したブドウで更なる収益の向上を目指していきたい。

6 これからの夢

現在は、作業に手一杯のため、農地の拡大を図ることができないが、将来的には、父の農地を継承し規模拡大を図り、愛南町の農業に貢献していきたい。

7 成功したキーポイント

継承した農業基盤があったこと、家業や農業大学校での専門教育等を通して技術力が身についたことが大きかった。

8 就農を目指す方へのアドバイス

「自分のやりたいことに取り組む」この言葉に尽きます。他産業では難しいですが、農業ではそれが実現できます。

失敗もあるかもしれませんが、精を出して農作業に励むとそれに見合う成果が必ず返ってきます。一緒に頑張っていきましょう。

○ 指導機関からのひとこと

松田さんは、非常に仕事熱心で技術と知識を習得しようとする姿勢には、目を見張るものがあります。

また、青年農業者組織の活動にも積極的に参加しており、将来の地域の担い手として、活躍することを期待しています。

執筆機関

南予地方局農業振興課地域農業育成室

愛南農業指導班

電話番号 0895-72-0149



甘夏の収穫作業